

出張調査報告書

松伏町議会議長 川上 力 様

会 派 名 公明・新自民の会

代表者氏名 莊子敏一



下記のとおり先進地視察を完了したので報告します。

記

1 期 日	平成30年10月25日から平成30年10月26日まで
2 視 察 地 及 び 日 時	(1) 大分県別府市 10月25日 (2) 太陽の家 10月25日 (3)
3 視 察 目 的	(1) 障害者福祉計画・障害者児童福祉計画 (別府市) (2) 障害者施設と民間企業の共同会社 (別府市太陽の家) (3)
4 視 察 者 氏 名	莊子敏一 堀越利雄 川上 力 山崎隆一郎
5. 視察結果	行程、視察結果は別紙のとおり

行政視察日程

10月25日(木)

南越谷集合出発	05:45	東武鉄道・営団地下鉄・JR東日本 東京モノレール 運賃 4,560円
羽田空港・第1ターミナル 着	06:57	
羽田空港 発	08:05	JAL661便 航空券・宿泊パック 186,400円 国内旅行保険 3,200円
大分空港 着	09:40	
	10:00	ニッポンレンタカー 大分空港営業所 (0978-67-3324) クラス:WH(禁煙・喫煙指定なし) 基本料金・保険代 18,360円
別府市役所 着	13:00	別府市役所視察研修
別府市役所 発	14:30	
太陽の家 着	15:00	太陽の家 視察
別府市内 宿泊	16:00	ホテルアーサー 人数:4人 朝食付 (1室1名様) 室数:4室 客室:【禁煙】シングルルーム×3 【喫煙】シングルルーム×1

10月26日(金)

ホテル チェックアウト	09:00	
道の駅	10:30	道の駅 くにさき 視察
大分空港 着	12:00	
大分空港 発	13:10	SNA90便
羽田空港 着	14:35	
羽田空港 発	15:02	エアポート快速特急(成田空港行) 京浜急行・都営地下鉄
押上駅 発	15:45	東武鉄道急行(南栗橋行) 運賃 4,120円
新越谷駅 着	16:10	解散

交通費合計		216,640円 (1人当たり54,160円)
-------	--	----------------------------

1. 大分県別府市役所

別府市の第5期障がい福祉計画、第1期障害がい児童福祉計画の内容

研修事項

(1) 生活支援から

◆訪問系サービス、日中活動系サービス、居住系サービス、舗装具費の支給は、平成27年度から平成29年度の実績と平成32年度までに見込みを教えてください。

(別府市回答)

別冊 別府市第3期障がい者計画(改訂版)を参照してください。

◆松伏町では人口が減少しているにもかかわらず、障害者の生活支援サービス費は増加しています。別府市も生活支援サービス費は増加していますか。また、生活支援費を抑制するための対策は取っていますか。

(別府市回答)

別府市では、障がい者の割合が大分県平均や全国平均を大きく上回っているため、障害者福祉の予算は増え続けている。

◆障がい児福祉サービスの放課後等デイサービスの平成27年度から平成29年度の実績と平成32年度までに見込みを教えてください。

(別府市回答)

別冊 別府市第1期障がい児福祉計画を参照してください。

◆障がい児通所支援の各サービスを受けるときの、市民の負担金はどのように決めていますか。

(別府市回答)

これは国が基準を決めているので、それに従っている。

(2) 生活環境から

◆別府市が整備した公共建築物のバリアフリー化した事例を紹介してください。

◆市内にあるユニバーサルデザインを考慮した道路や公園の事例を紹介してください

(別府市回答)

多い野犬のバリアフリー計画に基づいて建設しているので、別府市として特に取り組んでいることはない

(3) 教育、文化芸術活動・スポーツの振興から

◆別府市で取り組んでいる芸術・文化活動の具体的事業をご紹介ください。また、それらの活動から、障害者にどのような効果が現れましたか。

◆スポーツ・レクリエーションの振興では、大分国際車いすマラソンが有名ですが、そのほかにどのような活動を支援していますか。

(別府市回答)

別府市では障害者がモデルになりファッションショーを開催している。これにより障がい者が自己主張できるようになった。しかし、予算の関係で継続が難しくもなっている。スポーツの部では、卓球バレー、ボッチャ教室、水泳教室などを独自で開催している。スポーツを通じて社会との触れ合う機会を増やしている。

(4) 雇用・就業・経済的自立から

◆障がいのある人の一般就労に、どのような支援を行っていますか。実際に一般就労に結びついた例は何件ありますか。

◆就労移行支援B型などの施設の利用者は低い工賃で日中活動を行っていることが多いですが、別府市ではそれらの利用者は、どの程度の工賃を受け取っているのでしょうか。

(別府市回答)

就労移行支援B型施設の工賃は、平均で3万円程度になっている。太陽の家だけを見ると、5万円台の工賃を得ている。

2. 別府市太陽の家

障害者施設と民間企業の共同会社

社会福祉法人 太陽の家は1964年の東京パラリンピックの開催に尽力した中村 裕医師が設立した社会福祉法人。施設の理念は「No Charity, but a Chance !」(保護より機会を)。この理念に沿って、オムロン太陽の家、ソニー太陽の家、大分銀行太陽の家、ホンダ太陽の家をはじめ多くの合弁企業を立ち上げ、障害者の社会進出に取り組んでいる。視察したオムロン太陽の家や富士通太陽の家には、就労継続支援A型、就労継続支援B型、就労移行支援の施設が配置されており障害者が「就労」していた。一般的な就労継続支援B型の施設では「就労」ではなく「日中活動」であり、工賃も月に1万円~2万円が多い。太陽の家では、「日中活動」ではあるが、B型施設でも5万円以上の工賃を得ている。もちろん、就労移行支援から一般就労に移って社員として働いている人も多くいた。

また、太陽の家は地域交流・国際貢献に力を入れており、スーパーマーケット、温泉施設、カフェなどを開設し障害者がいきいきと働いている。また、アジア諸国の障害者福祉向上のため研修生の受け入れ、スタッフの派遣を行っている。

さらに、中村 裕医師の原点でもあるスポーツ・文化活動は、大分国際車いすマラソンをはじめ、車いすバスケットボール、車いすテニス、ボッチャ、卓球バレーなど数多くの活動を展開している。

別府市の障害者福祉施策の多くを、この太陽の家が牽引していると感じた。

3. 道の駅くにさき 現地視察

道の駅くにさきは大分空港から車で10分ほどの国東半島の東側にある。施設は農産物直売所と食堂、海産物など特産品販売所、観光案内施設の3棟からなっている。隣接する海岸と一体になっており、かなりゆったりとしたスペースで展開している。観光案内施設はサイクリングターミナルにもなっていて、自転車で九州を回る人がよく立ち寄る場所でもある。近くに商店がないためか、地元の人が野菜をひっきりなしに買いに来ていた。

道の駅を利用する客層を誰に絞るかが、大事な要素だと感じた。

4. 参加議員の感想

視察報告

堀越利雄

10月25日、大分県別府市障害福祉課で障害者福祉計画・障害児児童福祉計画の説明を受けた。まず平成30年度予算額に驚かされた。障がい福祉関係予算は45億7858万1千円だが、これは別府市一般会計予算の9%を上回る。

次に、障がい者計画の基本理念は「自立生活の実現」と「共生社会の実現」とする、別府市が掲げるテーマを実践している太陽の家を視察した。障がい者施設と民間企業の共同企業の共同会社は、太陽の家の創設者・中村裕博士の理想とする障がい者の働く場づくりに取り組んでいる。

オムロン太陽(株)、三菱商事太陽(株)、富士通エクサス太陽(株)で働く障がい者の現場を視察したが、障がい者と健常者の比率が約半分で、一般にみられるような自然な雰囲気、黙々と仕事をこなしている姿勢に感動を覚えた。

障がい者が社会と共存して生きる大切さを理解するとともに、これからの障がい者福祉の進む指針がここにあり、中村裕博士の掲げる「保護より機会を」の実践が、今回の視察先である別府市にあることを感じた。

大分県別府市視察

川上 力

別府市では、障がい福祉サービス費が一般会計の1割に迫る額になっていることに驚いた。また、別府市障害のある人もない人も安心して安全に暮らせる条例、通称「ともに生きる条例」が制定されていることに感心した。そして障がい者の作業所の共同受注を大分県全体で行っているのも素晴らしい取り組みだと感じた。太陽の家では、障がい者の自立は「保護よりも機会を」の理念のもと、創立者の中村裕博士の考えから、働く場所の提供が進んでいて驚いた。民間の力を生かした事業を、もっと展開出来たら素晴らしいと感じた。

大分県別府市「社会福祉法人 太陽の家」視察について

山崎隆一郎

1965年開所以来53年、障がい者の「保護より機会を」の創設者中村裕博士の提唱により、障がい者が共同出資会社と共に働く機会を創設された。

初めての視察ですが、太陽の家周辺には、各企業の会社が林立し、小さな町を形成しているような環境であり、その中で、自分の能力を発揮しながら社会に貢献をしている姿を目にしました。ここでは、障害による差別はなく、生き生きと働く姿を目にし、共生社会の未来をみた感じがしました。

また、別府市では、障害のある人もない人も安心して安全に暮らせる条例があり、共生社会を目指す姿勢がどこよりも強く感じました。

障害を理由に不利益な取り扱いをすること。

雇用の場面での差別、公共交通機関を利用する場面での差別、教育を受ける場面での差別、サービスの提供を受ける場面での差別、医療を受ける場面での差別など、様々な差別の中で合理的配慮を行い、差別撤廃を目指す条例となっています。

先の太陽の家では、雇用の場面での差別や、将来の不安などの受け皿として、障がい者の立場に立った姿勢を強く感じました。

今回の視察で感じました事は、お互いに認め合い、思いやり、支え合う社会を作るためにまずは、個人の壁を乗り越え、ともに生きる道を探すことだと強く思いました。